

令和7年度 熊本市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和8年5月
熊本市(熊本県)

○計画期間:令和5年4月～令和10年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和5年4月から、目指す都市像である『昼も夜も歩いて楽しめる、いつまでも魅力的なまち』の実現に向け事業に取り組んでおり、令和7年3月に策定した「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図(熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン)」の周知に努めるとともに、各種関連事業の実施を行った。また、昨年度に引き続き、台湾などのアジア圏を中心としたインバウンド需要の拡大等により、中心市街地のにぎわいが創出された。

熊本城地区では、熊本城の復旧が進む中、秋のお城まつりに合わせて日本最大級の人工雲海を出現させる「雲上の熊本城」が公開され、夜間は熊本の豊富な水をイメージしたライトアップやプロジェクションマッピング等で幻想的な体験を創出した。今後も、引き続き期待される国内からの観光客やインバウンド需要を取り込むために、新たな魅力の創出や中心商店街等への回遊性の向上に繋がる事業を進めていく。

通町筋・桜町周辺地区では、花畑広場や中心商店街一帯でNHKの連続テレビ小説「ばけげん」の放送に合わせた小泉八雲関連事業やくまもと花博など多種多様なイベント等が開催され、にぎわいの創出や回遊性の向上が見られた。また、熊本市新庁舎整備については、基本計画の検討にあたり必要な調査や市民の意見聴取に取り組んでいる。同時に、現庁舎跡地の利活用を含む周辺エリアの一体的なまちづくりを推進するため、まちづくりの方向性や考え方を定める「(仮称)庁舎周辺まちづくりプラン」の策定(令和8年度末予定)に向け検討を進めている。

新町・古町地区では、歴史的建造物や町屋等が多く残っている地域で地域住民及び関係団体と連携したまちづくりを進めている。唐人町通りでは、昨年度に引き続き、県道部分の道路美装化等を行い、R8年2月に西唐人町部分(1工区車道部分)の工事が完了している。今後も着実な道路美装化や歴史的町並み景観やにぎわい向上につながる利活用の検討等に取り組んでいく。

熊本駅周辺地区では、開業5年目を迎えたアミュプラザくまもとの令和7年度の売り上げが317億円、入館者数は1,717万人と過去最高を記録した。駅前広場「アミュひろば」では日本酒まつり、ウォーターパーク、クリスマスマーケット等の定番人気イベントの定着や年間イベント開催日数の増加し、熊本駅周辺におけるにぎわいの創出を牽引している。

また、熊本駅新幹線口駅前広場では、令和10年度の完成を目指して令和8年3月に再整備に着手しており、熊本の陸の玄関口として安全性・利便性の向上を図っていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(1) 居住人口

(中心市街地 区域)	令和3年度 (基準年度)	令和4年度 (計画前年度)	令和5年度 (1年目)	令和6年度 (2年目)	令和7年度 (3年目)	令和8年度 (4年目)	令和9年度 (5年目)
人口	37,617	37,864	38,702	39,407	39,730		
人口増減数	415	247	838	705	323		
自然増減数	▲44	▲96	▲162	▲163	▲139		
社会増減数	459	343	1,000	868	462		
転入者数	4,429	4,458	5,086	5,015	4,740		

(2) 地価

	令和4年 (基準年)	令和5年 (計画前年)	令和6年 (1年目)	令和7年 (2年目)	令和8年 (3年目)	令和9年 (4年目)	令和10年 (最終年)
中心市街地 商業地域 平均	735,750	732,667	748,917	772,167	803,250		
下通1丁目 12番23	1,420,000	1,410,000	1,430,000	1,460,000	1,490,000		
上通町 1番16	1,310,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000		
花畑町 12番6外	631,000	631,000	654,000	682,000	724,000		
新町1丁目 7番36外	200,000	207,000	218,000	229,000	243,000		
中央街 4番30	583,000	580,000	594,000	638,000	695,000		
上鍛冶屋町 8番2	217,000	224,000	238,000	253,000	271,000		
呉服町2丁目 36番1外	228,000	237,000	252,000	267,000	283,000		
草葉町 4番9	428,000	437,000	458,000	488,000	529,000		
下通1丁目 3番3	2,400,000	2,370,000	2,400,000	2,440,000	2,480,000		
安政町 4番11	517,000	528,000	548,000	573,000	620,000		
辛島町 4番6	498,000	513,000	529,000	556,000	598,000		
上林町 1番25外	397,000	405,000	416,000	430,000	456,000		

※毎年1月1日における標準地の単位面積当たりの価格

2. 令和7年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和5年4月からスタートした4期計画では、これまで整備された都市基盤施設を最大限に活用しつつ、計画のコンセプトである「昼も夜も歩いて楽しめる、いつまでも魅力的なまち」の実現に向けて各種事業が実施されている。

計画期間の3年目となる令和7年度も引き続き既存の都市基盤施設を活用したソフト事業の展開、道路空間の整備や大型マンション等の建設あるいはインバウンド需要の高まりなど中心市街地の賑わいに繋がる取り組みや環境等の変化が「目標指標ごとのフォローアップ結果」にも表れておりますが、掲げられている3の目標のうち「時代の変化を見据えた魅力あるまちづくり」、「にぎわいの創出と回遊性の向上」における中心市街地の歩行者通行量について【B】評価であること以外は熊本市内の宿泊客数並びに中心市街地の居住人口の伸びも見られ応分の評価ができるものと考えます。

この2点の【B】評価については、今後の対策を検討され目標達成に向けた取り組みを進めていただきたいと考えます。

このような中、令和7年度における中心市街地活性化基本計画の変更では各回において令和6年度末に策定された、「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図」（熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン）に紐づく事業等を全庁的に収集され計画へ反映するなど中心市街地活性化基本計画の上位に位置するビジョンとしてその役割を果たしているものと考えます。

令和8年度以降も引き続き他部署間との連携を更に緊密化し相乗効果を求めつつ効率的、効果的な事業推進に注力していただきたい。

次に、本市中心市街地に大きな影響を与える一大プロジェクトである熊本市庁舎移転建替計画においては、新庁舎整備を契機としたまちづくりの方向性や考え方を取りまとめるため、庁舎周辺まちづくりプラン（仮称）等検討委員会を組織され、令和7年度は検討委員会、熊本市議会の庁舎整備に関する特別委員会各4回の議論等を経て「（仮称）庁舎周辺まちづくりプラン」骨子（案）を取りまとめられました。

当該骨子（案）の結びとして、プラン策定後は防災、賑わい・回遊、都市文化、まちの成長、まちなか交通の各項目を掲げられ一例としながらも様々な取り組みを展開していくとされています。

昨年度（令和6年度）の当協議会の意見として掲げた、インバウンドはもとより在熊の市民・県民の消費拡大に資する「夜間の賑わい」づくりや熊本都市圏と中心市街地の相互発展に寄与する交通政策と都市政策を連動させた移動サービスの検討については骨子（案）記載の項目に類する内容でありかつ喫緊の課題でもあるとの認識から、プラン策定にかかわらず早急に取り組むを進めていただきたい。

また、熊本市中心市街地を象徴する所謂「2核3モール」が市庁舎の移転建替に伴いその一部でも衰退するようなことは避けるべき事態であり、庁舎周辺のまちづくりにおいてこのエリアに関わらずしっかりと対策を検討していただきたいと考えます。

今後は当該プランの策定に向けて意見聴取をされるとのことですが、市民・来街者・地権者・事業者それぞれ思いや考え方に少なからず相違があるものと考えられることからそれぞれ

の意見をバランス良く聴取された上で議論・検討を進めることが肝要であると考えます。

さらに、従来からくまもと都市戦略会議のもとで取り組んでいる中心市街地の将来ビジョン「熊本市中心市街地グランドデザイン 2050」においては、令和7年4月に開催された「くまもと都市戦略会議」において次の10年を見据えた取り組みについて次の4つの重点事項が共有されました。（くまもと都市戦略会議資料から）

1. 中心市街地における「15 分生活圏」の形成
少子高齢化の進展を見据え、「まちなか居住」や「建物のミクストユース」等を促進し、中心市街地における「15 分生活圏」を形成
2. 交通政策と都市政策を連動させた中長期の移動サービスの実現
熊本都市圏と中心市街地の相互発展に寄与する、交通政策と都市政策を連動させた中長期の移動サービスに関するビジョンを構想し、実現に向けた取組を進める
3. 人手不足への対応、人材育成・定着
生産年齢人口の減少を見据えた、人手不足への対応（多様な人々が働きやすい・住みやすい環境、外国人に選ばれる環境の整備等）や、人材育成・定着（専門人材が活躍できるオフィスの誘致、スタートアップが集まり根付く環境づくり等）の施策を検討し進める
4. 中心市街地に期待される機能の更なる充実
中心市街地に今後期待される「業務」、「商業」、「居住」、「スポーツ」、「エンターテインメント」、「食・食材」、「文化」、「アート」等の機能を更に充実させる

当協議会は、「熊本市中心市街地グランドデザイン 2050」の推進にも深く関わっておりこれらの重点取組事項について議論・検討など引き続き熊本市、熊本商工会議所や各まちづくり関係の団体等と連携し取り組んでいる。

今後とも中心市街地の活性化に向けて引き続き官民一体となった協力体制のもと事業推進に積極的に取り組み実績を積み上げていくことが重要であると考えます。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
時代の変化を見据えた魅力あるまちづくり	「桜町・花畑周辺地区に魅力があると感じる市民の割合」と「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」	桜町・花畑周辺 50.9% 熊本駅周辺 46.2% (令和3年度)	桜町・花畑周辺 52% 熊本駅周辺 47% (令和9年度)	桜町・花畑周辺 58.5% 熊本駅周辺 45.3% (令和7年度)	B	A	B
にぎわいの創出と回遊性の向上	中心市街地の歩行者通行量	596,766人 (令和3年度)	812,000人 (令和9年度)	657,228人 (令和7年度)	B	A	B
	熊本市内の宿泊客数	168万人(年間) (令和2年)	290万人(年間) (令和9年)	418万人(年間) (令和7年)	A	A	A
安全で安心できるまちなかへの居住促進	中心市街地の居住人口	37,682人 (令和3年度)	37,700人 (令和9年度)	39,813人 (令和7年度)	A	A	A

<基準値からの改善状況(※1)>

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A:目標達成、B:基準値より改善、C:基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類(※2)>

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A:目標達成が見込まれる

B:目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C:目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「<基準値からの改善状況(※1)>」、<目標達成に関する見通しの分類(※2)>ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。(例:a、b、c)

2. 目標達成見通しの理由

「桜町・花畑周辺地区に魅力があると感じる市民の割合」と「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」については、都市基盤を効果的に活用したソフト事業の取組等により、桜町・花畑周辺地区は目標値を超える数値を維持している。熊本駅周辺地区に関しては、基準値を下回る結果となったが、白川口駅前広場の完成及びアミュプラザくまもとの開業が重なり熊本駅周辺への注目度が高かった基準年(令和3年度)に近い値を推移している。今後もアミュひろばを含む白川口駅前広場のイベントの利活用を行いながら、熊本駅新幹線口駅前広場の再整備を予定しており、これまで以上に安らぎやにぎわいを感じられる空間を実現していく。

「中心市街地の歩行者通行量」については、令和 7 年度は前年度から約 1 万人の減少となったが、コロナ禍からは約 10 万人増加しており、基準年以降も上昇傾向にある。引き続き、各地区のイベント事業や整備等を実施し、歩行者通行量の上昇に取り組んでいく。

「熊本市内の宿泊客数」については、昨年からさらに国内外からの需要が高まり、令和 7 年は 418 万人と過去最高実績となった。今後も、台湾などのアジア圏を中心としたインバウンド需要が期待できることから、引き続き、熊本城等の魅力ある観光資源を活かした取組や熊本城マラソンなどのイベント等の各事業に取り組んでいく。

「中心市街地の居住人口」については、民間事業者による建て替えや様々な生活支援等により災害に強く多世代の市民が暮らしやすいまちづくりに取り組み、39,813 人と目標値を大幅に達成した。今後も、居住人口の増加に向け、規制緩和や財政支援メニューの拡充等による建て替え促進や暮らしの支援など各事業の実施により数値の維持に取り組む。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

基準値から数値が伸び悩んでいる「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」及び「中心市街地の歩行者通行量」は、各地区のイベント事業の来場者数の増加や企業立地等も進んでおり、前年度は数値も上昇傾向にあったため目標達成が見込まれると考えていた。令和 7 年度においては、前者は基準値に近い数値で推移したままであり、後者は基準値を超えているものの今年度初めて減少したため見通しを変更した。

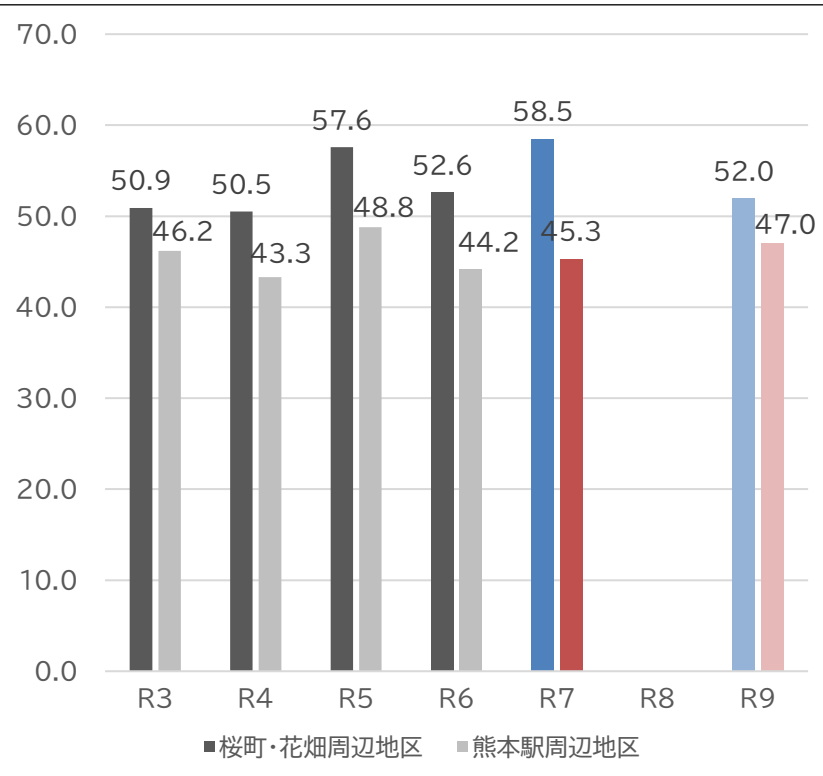
熊本駅周辺地区では、新幹線口駅前広場の工事に着手しているため、にぎわい創出や回遊性の向上等に影響する可能性もあるが、整備後に合わせた民間開発や駅周辺のイベント事業の開催により、「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」も基準値に近い値を維持していきたい。

宿泊客数及び居住人口に加えて、各地区のイベント事業の来場客数は前年度よりも増加傾向にあり、熊本駅新幹線口駅前広場や唐人町の整備事業や各種補助・支援事業も順調に進んでいると考えられるため、引き続き中心市街地の魅力向上や「歩行者通行量」の上昇に努めていく。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「桜町・花畑周辺地区に魅力があると感じる市民の割合」と「熊本駅周辺が魅力的であると感じる市民の割合」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P.67～P.69 参照

●調査結果と分析



年	(単位:%)
R3	桜町・花畑周辺地区 50.9 熊本駅周辺 46.2 (基準値)
R4	桜町・花畑周辺地区 50.5 熊本駅周辺 43.3
R5	桜町・花畑周辺地区 57.6 熊本駅周辺 48.8
R6	桜町・花畑周辺地区 52.6 熊本駅周辺 44.2
R7	桜町・花畑周辺地区 58.5 熊本駅周辺 45.3
R8	
R9	桜町・花畑周辺地区 52.0 熊本駅周辺 47.0 (目標値)

※調査方法:「熊本市総合計画市民アンケート」調査結果

郵送法(郵便による調査票配布・回収)及びWEBアンケートによる回収

※調 査 月:毎年1～2月

※調査主体:熊本市

※調査対象:熊本市

〈分析内容〉

令和7年度は、都市基盤の利活用及び着実な企業立地・人材育成に取り組むことで、中心市街地の魅力向上を図り、2地区における魅力があると感じる割合は、58.5%（桜町・花畑周辺地区）及び45.3%（熊本駅周辺地区）となった。

桜町・花畑周辺地区では、花畑広場周辺の効果的な利活用に取り組み、市民が魅力を感じる割合が昨年度より5.9%上昇し、目標値を上回る数値を維持している。サクラマチクマモトが開業された令和元年の数値（61.5%）に最も近い数値となり、花畑広場等の都市基盤を活用したイベント等の効果が現れている。

熊本駅周辺地区については、昨年度よりも1.1%上昇したものの目標値及び基準値を下回る結果となった。その原因を探るため、アンケートの属性により詳細に分析を行った。性別別で見ると、男性は46.3%、女性は45.2%となり男女における割合の差は大きくない。居住地区別では、熊本駅がある西区は56.9%と最も高いが、その他の地域では中央区（46.8%）、南区

(44.9%)、北区(44.3%)、東区(40.8%)と熊本駅から離れるほど数値が低くなっている。年代別では、20～24 歳が 66.3%と最も高く、次いで 30～34 歳(57.7%)、40～44 歳(54.0%)の順となり、通学通勤、買い物等で利用する生産年齢人口世代からの評価が高くなっている。

なお、基準年である令和3年度は、白川口駅前広場の完成及びアミュプラザくまもとの開業が重なり、熊本駅周辺に注目が集まった年であった。基準年以降は、これまでに整備されたアミュひろば、熊本駅白川口駅前広場等の活用事業を展開すると共に、民間開発によるマンションやオフィス建設が進む等、開業当時に近い数値を維持している。

また、市民アンケートでは、中心市街地ににぎわいがあると感じる割合も調査しており、令和7年度は57.6%を達成した。コロナ禍以前の5年間の平均(48.46%)を超える数値となっており、現状の中心市街地への注目度やにぎわいは高まっていると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本駅周辺エリア魅力発信事業（西区にぎわいづくり実行委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】														
事業概要	熊本駅周辺地区において、地域住民と民間事業者、行政が連携し、地域の課題解決に取り組むとともに、熊本駅周辺におけるイベント開催等を行う。														
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）														
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】82,000 人 ・熊本駅周辺地区において、「西区フェスタ」、「くまもと森都心プラザ春まつり」及び「KAB 駅前フェスタ」を同時開催した。今年度は熊本駅周辺の異なる場所で開催することにより回遊性を高め、昨年度開催時より 7,000 人多い来場者数となった。西区フェスタのステージイベントは、令和6年度に引き続き、西区にゆかりのある様々な団体に公募し、幅広い世代で楽しめるイベントを開催したことで、熊本駅周辺地区の魅力向上に寄与している。 【イベント来客数】 <table><tr><td>令和3年度 （2021 年度）</td><td>令和4年度 （2022 年度）</td><td>令和5年度 （2023 年度）</td><td>令和6年度 （2024 年度）</td><td>令和7年度 （2025 年度）</td></tr><tr><td>63,000 人</td><td>66,000 人</td><td>65,000 人</td><td>75,000 人</td><td>82,000 人</td></tr></table>					令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）	63,000 人	66,000 人	65,000 人	75,000 人	82,000 人
令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）											
63,000 人	66,000 人	65,000 人	75,000 人	82,000 人											
事業の今後について	今後も地域住民と民間事業者、行政の連携を行い、熊本駅周辺におけるイベント開催等を行うことで、熊本駅周辺のにぎわい創出や新たな魅力発信に努めていく。														

②. 花畑広場にぎわい創出事業（熊本市）

事業実施期間	令和4年度～【実施中】				
事業概要	花畑広場（くまもと街なか広場、辛島公園及び花畑公園）において、盆踊り、アートフェスティバル等の多様なイベント開催によるにぎわいを創出する。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】78.6% ・花畑広場において、RKK まつりや台湾祭など多種多様なイベントを開催した。令和7年度の来場者数は約140万人となっており、桜町・花畑周辺地区の魅力向上に寄与している。また、令和5年度からは、座学やトライアルイベントの開催等を通して、市民主体のイベント等を企画・運営する人材を育成する「くまもと広場ニスト育成スクール」を開催し、市民主体の利活用促進を図っている。				
	【花畑広場の使用率】				
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
	—	59.3%	60.5%	66.3%	78.6%
事業の今後について	今後も多種多様なイベント等を開催するとともに、くまもと広場ニストの育成など更なる利活用促進を図ることで、花畑広場の使用の向上に努めていく。				

③. 新庁舎整備事業（熊本市）

事業実施期間	令和6年度～【実施中】				
事業概要	本庁舎等（本庁舎・議会棟・中央区役所）の整備を行う。（整備の具体化に必要な詳細調査、資金計画等を含む）				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和7年度～令和9年度） ※詳細調査、資金計画等にかかる経費のみ対象				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】— ・新庁舎整備基本計画の策定に向けた検討を行うとともに、新庁舎建設地の用地取得のための不動産鑑定評価や建物調査、現庁舎の解体手法の検討等の必要な調査を実施した。				
事業の今後について	今後、床面積の精査や整備事業の検証を実施した上で、新庁舎整備基本計画の策定後に、基本設計・実施設計を順次行い、新庁舎整備事業を進めることで、中心市街地のにぎわいや回遊性の向上、地域・経済交流につなげ、中心市街地の魅力向上に努めていく。 【今後のスケジュール】 ・令和8年度 検証等を踏まえて基本計画素案の作成・公表予定				

④. 新庁舎整備推進事業（熊本市）【令和 7 年度追加】

事業実施期間	令和 6 年度～【実施中】
事業概要	本庁舎等整備に係る市民への情報提供・意見聴取等を行う。（合意形成事業）
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 7 年度～令和 9 年度） ※事業性評価、合意形成等にかかる経費のみ対象
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】— ・令和 7 年度は、新庁舎整備基本計画検討分科会の開催、新庁舎整備に関する市民アンケート調査、オープンハウス、ワークショップを開催するなど市民等からの意見聴取や機運醸成（合意形成）のための取組を進めた。
事業の今後について	引き続き、新庁舎整備に関する市民等からの意見聴取や機運醸成に向けたイベント・取組等を実施し、新庁舎整備を通じた中心市街地全体のにぎわいや回遊性の向上、地域・経済交流につなげ、中心市街地の魅力向上に努めていく。 【今後のスケジュール】 ・令和 8 年度 新庁舎整備基本計画検討分科会の開催・情報発信 市民等からの意見聴取・機運醸成（合意形成）

⑤. 庁舎周辺まちづくり推進事業（熊本市）【令和 7 年度追加】

事業実施期間	令和 7 年度～【実施中】
事業概要	新庁舎整備を契機とした庁舎周辺のまちづくりを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 7 年度～令和 9 年度） ※詳細調査、資金計画、事業性評価、合意形成等にかかる経費のみ対象
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】— ・「（仮称）庁舎周辺まちづくりプラン」の策定に向け検討を進めるとともに、くまもとまちづくりラボ、市民アンケート、シンポジウムを開催するなど市民等からの意見聴取や機運醸成のための取組を進めた。
事業の今後について	令和 8 年度末のプラン策定を目指し、策定後のプランに基づき、中心市街地のにぎわいの創出と回遊性の向上のための様々な取組等を展開する。 【今後のスケジュール】 ・令和 8 年度 「（仮称）庁舎周辺まちづくりプラン」策定

⑥. 熊本駅新幹線口駅前広場交通対策事業（熊本市）

事業実施期間	令和２年度～令和８年度【実施中】
事業概要	駅前広場の交通混雑の解消、円滑な歩行や賑わいの創出などを目的として、歩行者の動線や、タクシー・バス・一般車の乗降、待機スペースの配置を見直す改善・改修を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和５年度～令和７年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】－ ・令和７年度は、熊本駅新幹線口駅前広場の交通混雑の解消、円滑な歩行やにぎわいの創出による魅力向上に向けた対策について、学識者が参加する専門家会議を開催（令和６年度から計６回開催）した。会議の意見を踏まえ、熊本駅新幹線口駅前広場改修に係る詳細設計を実施し、令和８年３月には駅前広場の改修工事（既存施設撤去工事）に着手した。
事業の今後について	令和１０年度末の工事完了を目指す。 【今後のスケジュール】 ・令和８年度 改修工事（既存施設撤去、新設工事等） ・令和９年度 改修工事（新設工事等） ・令和１０年度 改修工事（新設工事等）

⑦. 企業立地促進事業（熊本市）

事業実施期間	平成１１年度～【実施中】				
事業概要	本市に立地した企業で、本市が指定する要件を満たした企業に対し補助金の交付を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】１０２件（累計） ・企業立地件数（累計）は １０２ 件となり、製造業・情報関連企業等、様々な企業が立地している。令和７年度の立地企業の新規雇用予定者数は １８０ 人にのぼり、市内の雇用増加や都市のブランド力の向上に寄与している。				
	【当事業を活用した企業立地件数（累計）】				
	令和３年度 （２０２１ 年度）	令和４年度 （２０２２ 年度）	令和５年度 （２０２３ 年度）	令和６年度 （２０２４ 年度）	令和７年度 （２０２５ 年度）
	20 件	45 件	75 件	92 件	102 件
事業の今後について	引き続き、半導体関連企業や IT 関連企業、デジタルコンテンツ企業など、ターゲットを絞った戦略的な企業誘致活動を展開し、市内の雇用増加や都市ブランド力の向上を図っていく。				

⑧. 地域スタートアップ等支援事業（熊本市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】				
事業概要	成長が期待できるスタートアップ等に対するビジネスプランのブラッシュアップ等の伴走型支援や、学生のスタートアップへのインターン支援等を通じて、将来の地域経済をけん引する企業の育成を図り、地域経済の活性化、雇用の安定確保につなげる。				
国の支援措置名及び支援期間	① デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和5年度～令和6年度） ② 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）（内閣府）（令和7年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】173人（累計） ・起業家コミュニティの形成や企業の成長段階に応じた伴走支援、新規事業や新製品開発に挑戦する中小企業への補助事業等を行うなど、将来の地域経済をけん引する企業の育成を図ったことで、新規創業者数（累計）は173人となった。また、令和7年5月、世界最大級のビジネスコンテスト「スタートアップワールドカップ2026」九州予選を開催し、世界で活躍する大企業や投資家等とのコミュニティ形成や海外展開支援など地域経済の活性化や都市ブランド力の向上に寄与した。				
	【新規創業者数（累計）】				
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
	18人	46人	91人	138人	173人
事業の今後について	今後も、起業家コミュニティの形成や伴走支援、中小企業への補助事業等を継続するとともに、海外展開支援を実施することで、更なる地域経済の活性化や都市ブランド力の向上につなげていく。				

⑨. 安全安心まちづくり推進事業（熊本市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】				
事業概要	繁華街等における違法行為の防止に資するパトロール、広報啓発活動等を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】294人 ・客引き行為等禁止地区及び繁華街アーケード内において、指導員による違反行為防止パトロールを実施し、令和7年度は客引き行為者に対する指導22件、警告4件を行うとともに、熊本県警察との合同パトロールを定期的に実施した。これらの取組により、繁華街				

	における秩序ある通行環境の確保及び安全・安心な歩行空間の形成に寄与している。 【客引き行為人数（実態調査）】 <table><tr><td>令和3年度 （2021 年度）</td><td>令和4年度 （2022 年度）</td><td>令和5年度 （2023 年度）</td><td>令和6年度 （2024 年度）</td><td>令和7年度 （2025 年度）</td></tr><tr><td>217 人</td><td>222 人</td><td>283 人</td><td>308 人</td><td>294 人</td></tr></table>	令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）	217 人	222 人	283 人	308 人	294 人
令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）							
217 人	222 人	283 人	308 人	294 人							
事業の今後について	今後も指導員によるパトロールを継続するとともに、熊本県警察や地域、事業者等と連携した取組を強化することで、繁華街における違反行為の抑制を図り、中心市街地における秩序ある通行環境の確保及び安全・安心な歩行空間の形成に寄与していく。										

⑩. にぎわいづくり推進事業（火の国まつり運営委員会、お城まつり運営委員会）

事業実施期間	昭和53年度～【実施中】															
事業概要	「火の国まつり」「お城まつり」を開催する。															
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）															
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】4,800 人（405,183 人） ・令和7年度の火の国まつりではメイン行事となるおてもやん総おどりに加えて、縁日等の関係イベントを開催した。当日のおどり参加者数は 4,800 人、集客数は 405,183 人となった。新型コロナウイルス感染症の影響により 3 年間中止だったものの、年々おどり参加者数、集客数ともに増加しており、熊本市を代表するイベントのひとつとして中心市街地の魅力の向上及びにぎわい創出に寄与している。 【おどり参加者数・集客数（火の国まつり）】 <table><tr><td>令和3年度 （2021 年度）</td><td>令和4年度 （2022 年度）</td><td>令和5年度 （2023 年度）</td><td>令和6年度 （2024 年度）</td><td>令和7年度 （2025 年度）</td></tr><tr><td>中止</td><td>中止</td><td>3,810 人</td><td>4,666 人</td><td>4,800 人</td></tr><tr><td>中止</td><td>中止</td><td>362,605 人</td><td>359,150 人</td><td>405,183 人</td></tr></table> ※お城まつりは、熊本城特別公開関連事業にて掲載	令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）	中止	中止	3,810 人	4,666 人	4,800 人	中止	中止	362,605 人	359,150 人	405,183 人
令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）												
中止	中止	3,810 人	4,666 人	4,800 人												
中止	中止	362,605 人	359,150 人	405,183 人												
事業の今後について	令和8年度開催の「熊本地震 10 年 第 49 回火の国まつり」では、「～支えられた日々を、支え合う力に。～」をテーマに取り組む。加えて、本市の魅力発信や市内宿泊客数の増加に向け、安心安全で魅力的なイベントとして継続して取り組んでいく。															

⑪. 中心商店街地区魅力向上事業（STREET ART-PLEX KUMAMOTO 実行委員会）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】				
事業概要	中心市街地において、音楽等のイベント「STREET ART-PLEX KUMAMOTO」を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】10件（15,711人） ・中心市街地において、事業開始当初から継続しているイベントや新たなジャンルのパフォーマンス等を年間通して定期的に開催したことに加え、イベント当日の様子をオンライン上でリアルタイムに発信するなどし、更なる集客につなげる取組を行った。昨年度比では、イベントの開催件数が減少しているが、開催1件あたりの集客数は増加し計15,711人となり、にぎわいの創出及び回遊性の向上に寄与している。				
	【イベント開催件数・集客数】				
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
	10件 8,103人	9件 13,224人	13件 18,506人	12件 17,528人	10件 15,711人
事業の今後について	今後も、更なるにぎわいの創出及び回遊性の向上に向け、中心商店街での多種多様なイベントに取り組んでいく。				

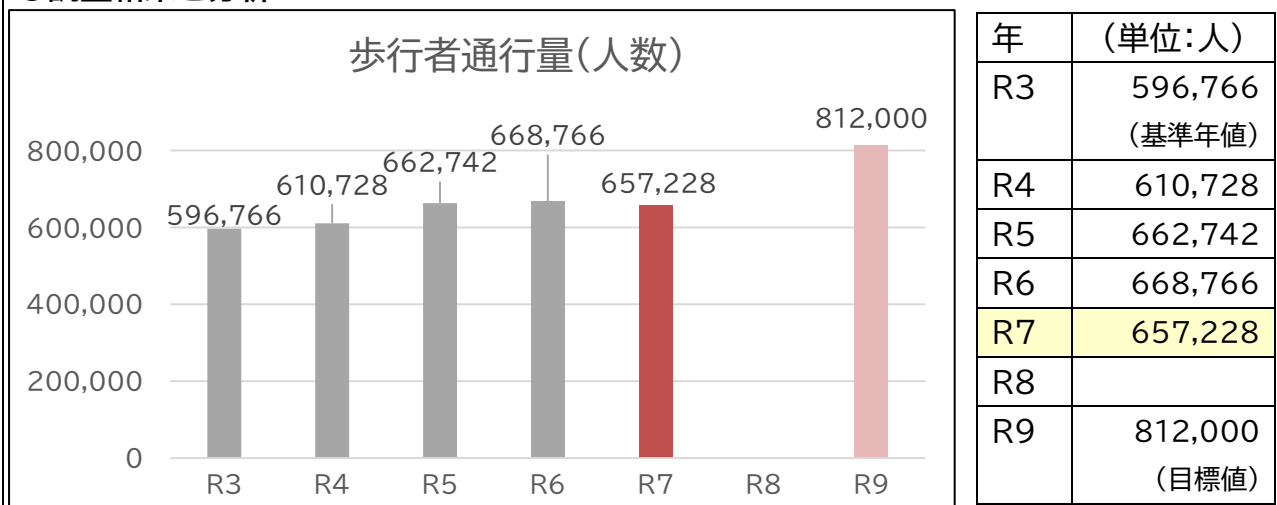
●目標達成の見通し及び今後の対策

桜町・花畑周辺地区では目標値を上回る数値を維持しており、今後も目標達成が見込まれる。引き続き、都市基盤の効果的な利活用を推進するとともに、企業の立地及び人材育成に取り組んでいく。また、熊本市役所の新庁舎整備を契機とした「（仮称）庁舎周辺まちづくりプラン」が令和8年度に策定される予定であり、今後は新庁舎周辺の一体的なまちづくりについて、より具体的に検討を行うことができると考えられる。

熊本駅周辺地区では、目標値及び基準値と比べ数値は下回ったものの、白川口駅前広場の完成及びアミュプラザくまもとの開業が重なった基準年に近い値を推移している。熊本駅周辺エリア魅力発信事業では、熊本駅周辺を一体的に活用して開催し、来客者数は年々上昇傾向にある。アミュひろばでは定番人気イベントの定着も見られ、駅前広場の利活用を牽引している。また熊本市は全国トップクラスの交通渋滞が課題の1つであり、日常生活において中心部ではなく郊外への自家用車による流出が想定される。令和7年度から熊本駅周辺の渋滞対策を兼ねて、新幹線口駅前広場の再整備に着手しており、安全性や利便性の向上に取り組む予定である。今後もイベントや整備により魅力づくり・情報発信を行いながら熊本駅周辺の魅力度の向上を目指していく。

(2-1)「中心市街地の歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P.70～P.73 参照

●調査結果と分析



※調査方法:調査地点(29 地点)を通過する対象者数を進行方向別一定時間計測し、
1 日(12 時間)の通行量(休日と平日の 2 日間)を算出。

※調 査 月:毎年 10 月(ただし、令和 5 年度以降は 11 月に実施)

※調査主体:熊本市

※調査対象:中心商店街及び熊本駅周辺計 29 地点における歩行者等の通行量の合計

(単位:人)

町名(通名)	令和 3 年度 (基準年度)	令和 4 年度 (計画前年度)	令和 5 年度 (1 年目)	令和 6 年度 (2 年目)	令和 7 年度 (3 年目)	令和 8 年度 (4 年目)	令和 9 年度 (5 年目)
上通	109,686	102,774	104,142	110,130	101,736		
下通	218,406	218,292	251,946	248,448	251,394		
新市街	59,880	74,094	90,972	95,616	98,232		
駕町通り	21,948	32,100	33,348	32,772	33,180		
水道町	30,432	33,036	35,292	35,964	33,804		
熊本駅周辺	62,946	54,408	46,740	55,962	59,142		
ワシントン通り	7,692	7,392	9,336	7,644	10,224		
プールスコート	4,416	4,152	4,620	3,276	3,204		
西銀座通り	6,252	9,684	7,380	6,234	7,818		
城見町通り	10,860	11,004	10,380	7,920	8,856		
シャワー通り	9,048	7,056	7,824	8,832	9,252		
市庁舎通り	9,096	11,664	9,804	9,216	9,048		
桜町	18,936	18,288	24,738	22,776	7,506		
銀座通り	12,540	12,660	12,084	9,804	9,096		
安政町	14,628	14,124	14,136	14,172	14,736		
合計	596,766	610,728	662,742	668,766	657,228		

【調査地点図】 令和7年度 商店街通行量調査結果より(熊本市 HP)

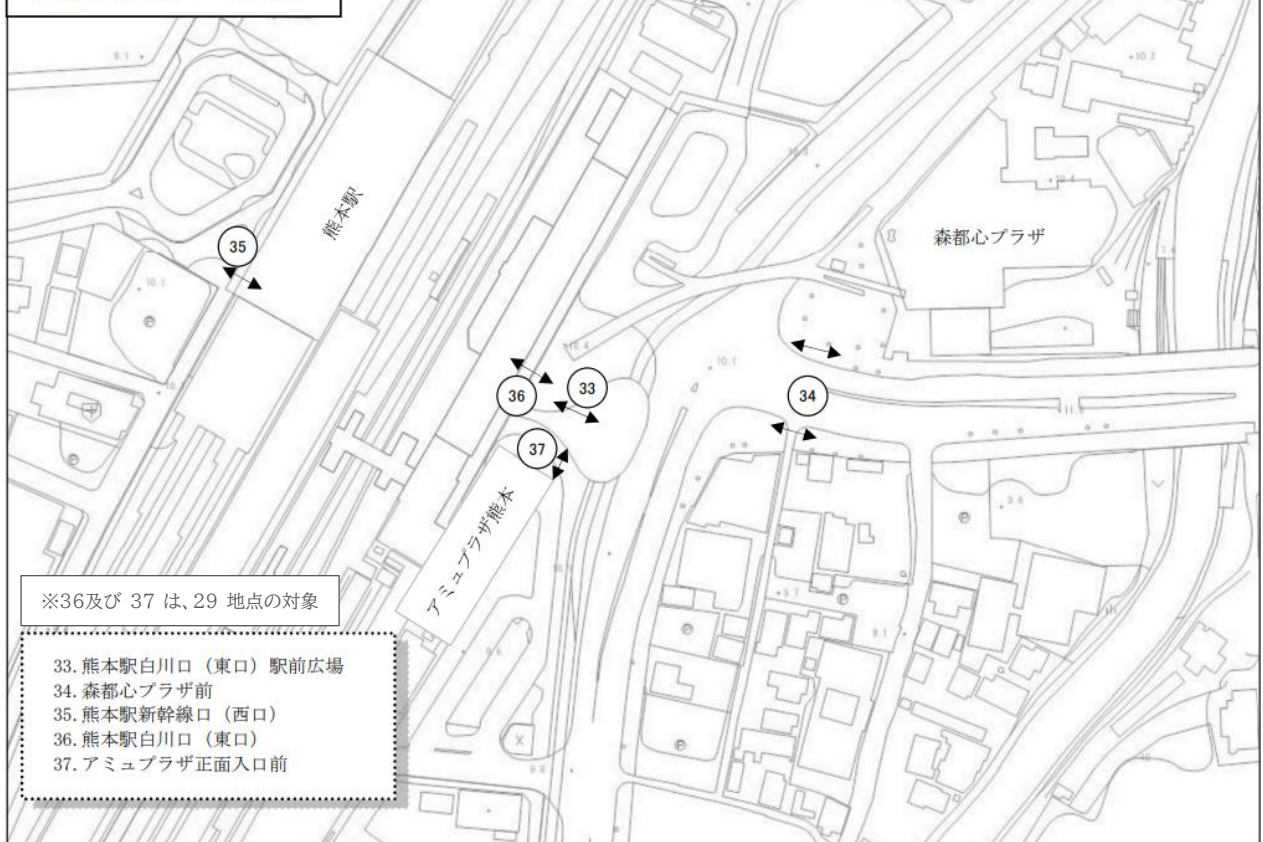
※1～5、14、36、37 は、29 地点の対象外



◆中心商店街（桜町～銀座通り）14地点



◆熊本駅周辺 5地点



〈分析内容〉

令和 7 年度の歩行者通行量は 657,228 人となり、9 箇所では増加が見られるものの、桜町と上通の 2 箇所で減少し、前年度よりも約 11,000 人減少した。最も歩行者通行量が減少しているのはサクラマチ～花畑広場地点（桜町）であり、今年度の歩行者通行量の結果に影響を与えている。調査日の天候や近隣のイベント開催状況による影響も一因にあると思われるが、今回減少した地点の周辺の歩行者通行量は前年度よりも伸びている地点が多いため、調査時にサクラマチ～花畑広場地点を経由せずに移動していた歩行者が例年に比べて多かったと考えられる。

本計画における中心市街地区域内全体の数値（37 地点）では、令和 7 年度の歩行者通行量は 795,420 人となり、前年度の 795,936 人から横ばいになったものの基準年から約 10 万上昇しており、利活用事業や回遊性向上事業の効果が現れている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ウォーカブル都市推進事業（熊本市）

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	熊本市民会館前道路等において、道路空間再配分（歩道の拡幅）や利活用の検討等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和 5 年度～令和 7 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】－ ・令和 7 年度は、「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図（熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン）」周知のため、ウォーカブルに関するイベントを 4 回開催した。また、上乃裏通りの一部区間において車両通行止めを実施し、歩行者空間化の検討を行った。
事業の今後について	今後も「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図」の周知や人中心の快適な都市空間の整備を進め、にぎわいの創出や回遊性の向上に取り組んでいく。 【今後のスケジュール】 ・令和 8 年度 「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図」の周知・広報の継続 熊本市民会館前道路の道路空間再配分検討 上乃裏通りの歩行者空間化検討

②. 桜の馬場観光交流施設管理運営事業（熊本市）

事業実施期間	平成 21 年度～令和 12 年度【実施中】
事業概要	熊本城のエントランス部分に当たる桜の馬場地区に、熊本城の歴史的背景を深く掘り下げ、今のお城をリアルタイムに見ることができる体感型ミュージアム等を運営することで、熊本城への来園だけにとどまらない観光客の流れを作り、中心市街地への誘引を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 5 年度～令和 9 年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】2,092,383 人(275,759 人) ・熊本城のエントランス部分に当たる桜の馬場地区において、熊本城の歴史的背景を深く学びながら、現在の熊本城の姿を体感できるミュージアム等の運営を行っている。城彩苑の入場者は前年度を上回り、熊本城への来園だけにとどまらない観光客の流れを作り、中心市街地への誘引や歩行者通行量の向上に寄与している。 【城彩苑の入場者数（うちわくわく座入館者数）】 <table><tr><td>令和3年 (2021 年)</td><td>令和4年 (2022 年)</td><td>令和5年 (2023 年)</td><td>令和6年 (2024 年)</td><td>令和7年 (2025 年)</td></tr><tr><td>534,862 人 (85,040 人)</td><td>1,116,503 人 (182,038 人)</td><td>1,857,629 人 (250,974 人)</td><td>1,983,931 人 (281,210 人)</td><td>2,092,383 人 (275,759 人)</td></tr></table>					令和3年 (2021 年)	令和4年 (2022 年)	令和5年 (2023 年)	令和6年 (2024 年)	令和7年 (2025 年)	534,862 人 (85,040 人)	1,116,503 人 (182,038 人)	1,857,629 人 (250,974 人)	1,983,931 人 (281,210 人)	2,092,383 人 (275,759 人)
令和3年 (2021 年)	令和4年 (2022 年)	令和5年 (2023 年)	令和6年 (2024 年)	令和7年 (2025 年)											
534,862 人 (85,040 人)	1,116,503 人 (182,038 人)	1,857,629 人 (250,974 人)	1,983,931 人 (281,210 人)	2,092,383 人 (275,759 人)											
事業の今後について	今後も、関係機関と連携しながら、体感型ミュージアム等の内容充実や運営の工夫を図ることで、観光客の利便性向上と市内宿泊客数の増加につなげていく。														

③. 文化芸術支援事業（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】																			
事業概要	地元アーティストと、発表の場を提供できる店舗等を WEB 上に登録し、マッチングイベントを推進する。																			
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）																			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】356 人（109 箇所） ・アーティストとスポット（発表の場）のマッチングイベント「アーティストウィーク熊本 2025」を中心市街地で実施したほか、熊本市の歴史的風致形成建造物であるカリーノ MS ビルを会場に音楽ライブやライブドローイングを実施するなど新たな取組を行い、にぎわいの創出に寄与している。 【アーティスト数・スポット数の登録状況】 <table><tr><td>令和3年度 (2021 年度)</td><td>令和4年度 (2022 年度)</td><td>令和5年度 (2023 年度)</td><td>令和6年度 (2024 年度)</td><td>令和7年度 (2025 年度)</td></tr><tr><td>167 人</td><td>232 人</td><td>280 人</td><td>320 人</td><td>356 人</td></tr><tr><td>72 箇所</td><td>88 箇所</td><td>106 箇所</td><td>110 箇所</td><td>109 箇所</td></tr></table>					令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)	167 人	232 人	280 人	320 人	356 人	72 箇所	88 箇所	106 箇所	110 箇所	109 箇所
令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)																
167 人	232 人	280 人	320 人	356 人																
72 箇所	88 箇所	106 箇所	110 箇所	109 箇所																
事業の今後について	今後もアーティストウィークの開催や、事業の広報、新規スポットの開拓に努めていくことで、文化芸術による中心市街地の更なるにぎわいの創出と回遊性の向上に取り組んでいく。																			

④. 記念館活用関連事業（熊本市）

事業実施期間	令和5年度～【実施中】				
事業概要	小泉八雲熊本旧居にて怪談イベントを開催する。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】2,316 人				
	・小泉八雲熊本旧居を活用した八雲に因んだ怪談イベントとして、子ども向けの謎解きお化け屋敷を昼間に行い、大人向けのイマーシブなお化け屋敷を夜間に実施した。				
	・本年度は、NHK の連続テレビ小説で小泉八雲の妻をモデルとした「ばけばけ」の放送に合わせ、例年実施しているお化けイベントに加え、近隣の蓮政寺公園での飲食イベントや中心商店街での妖怪パレードなどを同時開催し、桜町・花畑周辺地区のにぎわいの創出に寄与している。				
	【イベント期間中の小泉八雲熊本旧居入館者数】				
	令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）
	—	—	633 人	1,051 人	2,316 人
事業の今後について	今後も記念館のイベント開催等に努めるとともに、近隣の記念館と連携を高め、文化施設としての利活用及び回遊性の向上に努めていく。				

⑤. 熊本市現代美術館文化芸術活動支援事業（熊本市）

事業実施期間	平成１８年度～【実施中】				
事業概要	熊本市現代美術館にて展覧会を開催する。また、行政や中心商店街と協力し、美術を生かしたまちづくりを進める。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】20 回 ・令和７年度は、「やなせたかし展 人生はよろこばせごっこ」や「和食 ～日本の自然、人々の知恵～」、「第 37 回熊本市民美術展 熊本アートパレード」等の計 20 回の展覧会を開催した。街なかで毎年展覧会を開催することで、芸術に触れる機会を創出しながら、中心市街地の歩行者通行量の向上に寄与している。				

	【展覧会開催数】					
	年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
	ギャラリーⅠ・Ⅱ	5回	6回	6回	6回	6回
	ギャラリーⅢ	7回	6回	6回	5回	7回
	井手宣通 記念ギャラリー	6回	6回	6回	6回	7回
事業の今後について	今後も世代を問わず楽しめる展覧会等の開催に積極的に取り組み、来街者の増加を図ることで、にぎわいの創出と回遊性の向上に努めていく。					

⑥. 主要地方道熊本高森線（唐人町通り）の道路空間美装化事業（熊本市）

事業実施期間	令和3年度～令和8年度【実施中】
事業概要	新町・古町地区の中心に位置し、地域主体による歴史的建造物等の活用が進められている「唐人町通り」において、歴史ある町並みの持続的な継承・成長を図るため、賑わいや回遊・滞留につなげるための道路空間整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和5年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】— ・令和7年度は、唐人町通り（西唐人町～中唐人町）の官民境界立会を実施し、西唐人町部分（1工区）の工事に着手した。1工区車道部分は令和8年2月に完成し、引き続き街灯を含む歩道部分の工事を実施している。（令和8年7月完成予定）
事業の今後について	引き続き、県道部分の美装化工事を実施していくとともに、沿線の民有地を含めた景観まちづくりを検討し、にぎわいの創出と回遊性の向上に取り組んでいく。 【今後のスケジュール】 ・令和8年度 唐人町通り本線の西唐人町（1工区）の実施 唐人町通り本線の中唐人町（2工区）に着手

⑦. グリーンインフラ整備推進事業（熊本市）

事業実施期間	令和4年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心市街地や一級河川白川沿い、熊本駅周辺において、緑の多機能性を活用し、オープンスペースでの賑わいの創出や良好な歩行空間を形成することで、時間や距離を感じさせない魅力ある空間整備

	(白川右岸緑地再整備等)による地区全体の一体的なまちづくりを進める。				
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（グリーンインフラ型都市構築支援事業）（国土交通省）（令和5年度～令和8年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】－ ・令和7年度は、前年度に引き続きグリーンインフラ整備の着実な実施に取り組んだ。9月に白川右岸緑地（慶徳緑地）整備工事（第1工区）が、令和8年2月に第2工区の工事が完了し、良好な歩行空間の形成に向けて整備を進めている。				
事業の今後について	今後も公園や植樹帯の緑化を図ることにより、中心市街地における快適性や回遊性の向上に努めていく。 【今後のスケジュール】 ・令和8年度 白川右岸緑地（慶徳緑地）整備工事（第3工区）に着手				

⑧. まちなかフリーパス事業（熊本市）

事業実施期間	令和6年度～【実施中】														
事業概要	中心市街地の回遊性向上を図り、公共交通利用者の増加等を目的として路線バスを対象に200円均一エリア内で利用可能（土日祝日のみ）な1日乗車券を販売する。														
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和6年度～令和9年度）														
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】6,818枚 ・令和6年9月から開始した土日祝に利用可能なフリーパスの販売に取り組んだ。令和7年度は、利用方法の改善や施設割引特典の追加、周知広報の強化により年間の利用枚数は6,818枚（土日祝1日当たり平均57人）となり、公共交通の利用促進及び中心市街地の回遊性向上に取り組んでいる。 【年間利用枚数】 <table><tr><td>令和3年度 （2021年度）</td><td>令和4年度 （2022年度）</td><td>令和5年度 （2023年度）</td><td>令和6年度 （2024年度） ※令和6年9月～</td><td>令和7年度 （2025年度）</td></tr><tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>2,549枚</td><td>6,818枚</td></tr></table>					令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度） ※令和6年9月～	令和7年度 （2025年度）	—	—	—	2,549枚	6,818枚
令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度） ※令和6年9月～	令和7年度 （2025年度）											
—	—	—	2,549枚	6,818枚											
事業の今後について	今後も、まちなかフリーパスの認知度向上及び公共交通の利用者の増加に取り組み、中心市街地の回遊性を向上していく。														

⑨. 熊本城周遊バス運行事業（熊本市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】				
事業概要	熊本駅を発着とした熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バス「しろめぐりん」を運行する。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】92,758名 ・令和7年度は、インバウンド効果もあり、しろめぐりんの乗車人数は92,758人となり、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症流行前である令和元年度の利用者数（89,794人）を上回る実績となった。観光客の増加や交通利便性の向上により、今後も利用者数が見込まれ、中心市街地における回遊性の向上及び歩行者通行量の増加に寄与している。				
	【乗車人数（輸送人員数）】				
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
	44,644名	79,967名	89,880名	99,127名	92,758名
事業の今後について	今後も公共交通の利便性の向上を図ることで、中心市街地における歩行者通行量の増加の寄与に努めていく。				

⑩. 熊本城シャトルバス運行事業（熊本市）

事業実施期間	継続中（開始年度不明）～【実施中】				
事業概要	桜の馬場城彩苑及び熊本城二の丸広場間のシャトルバス運行を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】171,500人 ・桜の馬場城彩苑と二の丸駐車場を結ぶ無料シャトルバス（通常便）を運行し、熊本城を訪れる観光客の回遊性向上や、高齢者や車椅子・ベビーカー利用者、障がい者等を含む来訪者の移動利便性の向上を図った。酷暑期には臨時便を運行する等、広大な敷地を持つ熊本城と城彩苑間を来場者が円滑に移動できるような取り組みが行われており、主要な観光・文化施設間の回遊性の向上に寄与している。				
	【利用者数（臨時便含む）】				
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
	97,375人	152,277人	119,106人	178,704人	171,500人

事業の今後について	今後も、シャトルバスの安定的な運行を継続し、関係機関と連携しながら、観光客の利便性向上と市内宿泊客数の増加につなげていく。				
-----------	---	--	--	--	--

⑪. シェアサイクル利用促進事業（熊本市）

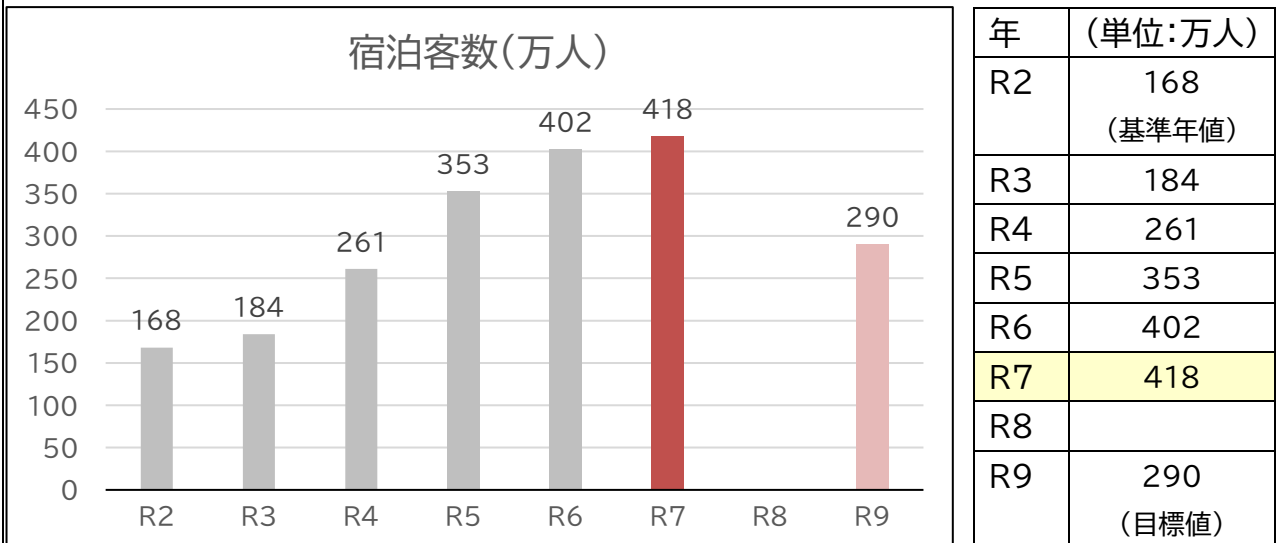
事業実施期間	令和4年度～【実施中】																			
事業概要	サイクルポートに設置された自転車を利用登録者が共有し、24 時間いつでも好きな場所で貸出・返却を可能とする。																			
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし																			
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】1,185,004 人（1,637,122 回） ・2 年間の実証実験を経て、事業の効果が確認できたことから、令和6 年4月より本格運用へと移行した。 令和7 年度は「西熊本・はませんエリア」や「運動公園・武蔵塚エリア」へ拡大し、熊本市と菊陽町の各エリアが「熊本・菊陽エリア」として一つに統合され、より広範囲で一体的な利用が可能になった。また、自転車台数やポート数を拡充したことで、昨年度に比べ利用者数、利用回数が大幅に増加し、中心市街地の回遊性向上へ大きく寄与している。 【利用者数・利用回数】 <table><tr><td>令和3年度 (2021 年度)</td><td>令和4年度 (2022 年度)</td><td>令和5年度 (2023 年度)</td><td>令和6年度 (2024 年度)</td><td>令和7年度 (2025 年度)</td></tr><tr><td>—</td><td>41,635 人</td><td>164,926 人</td><td>868,060 人</td><td>1,185,004 人</td></tr><tr><td></td><td>177,391 回</td><td>736,570 回</td><td>1,186,128 回</td><td>1,637,122 回</td></tr></table>					令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)	—	41,635 人	164,926 人	868,060 人	1,185,004 人		177,391 回	736,570 回	1,186,128 回	1,637,122 回
令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)																
—	41,635 人	164,926 人	868,060 人	1,185,004 人																
	177,391 回	736,570 回	1,186,128 回	1,637,122 回																
事業の今後について	今後もポートや自転車台数の拡充を図ることで、地域交通の利便性を増進させ、中心市街地のにぎわい創出と回遊性の向上に努めていく。																			

●目標達成の見通し及び今後の対策

年々上昇傾向にあった歩行者通行量は、基準値は超えているものの「桜町」「上通」の減少により今年度初めて減少した。しかしながら、令和7 年度も各地区で開催されているイベント事業の来場者数は順調に伸びており、国内外問わず年間を通して中心市街地の集客は活発に行われている。また、「居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図（熊本市中心市街地ウォークアブルビジョン）」の周知活動を行うとともに、公共交通やシェアサイクル等の移動手段の普及にも取り組み、中心市街地の回遊性向上に努めている。また、新幹線口駅前広場の工事に着手しているため、今後熊本駅周辺地区のにぎわい創出や回遊性の向上等に影響する可能性もあるが、引き続き中心市街地の人中心の快適な都市空間の整備及び多種多様なイベントの実施等に取り組むことで、街なかへ足を運んでもらう機会の創出及び魅力発信を行い、歩行者通行量の増加へと繋げていく。

(2-2)「熊本市内の宿泊客数」※目標設定の考え方認定基本計画 P.74～P.77 参照

●調査結果と分析



※調査方法:熊本市観光統計

※調 査 月:毎年1月～12月

※調査主体:熊本市

※調査対象:市内のホテル、旅館、公共宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

令和7年における市内の延べ宿泊客数については、過去最高を記録した令和6年の宿泊客数を超え、418万人となった。熊本城の特別公開など本市の魅力ある観光資源の効果的な活用・PRに加えて、熊本城マラソンやくまもと花博等の本市主催の大規模イベントやコンベンションが開催され、国外・県外からの観光客・ビジネス客を確実に引き込むことができている。また、国外観光客に向けたプロモーションや情報発信に努め、多言語対応のため整備した受入環境を最大限に活用することで、台湾などのアジア圏を中心としたインバウンド需要も取り込むことができたと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. MICE 誘致戦略事業（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～令和11年度【実施中】																						
事業概要	MICE 誘致活動、コンベンション開催の助成を行う。																						
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）																						
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】401 件（132,356 人） ・令和7年度は、従来のMICE 誘致活動を継続するとともに、新たな取組として将来的な国際会議誘致を見据えキーパーソンとの交流会等を実施した。当該年度は2千人以上の大規模会議の開催が少なかったことにより年間のコンベンション参加者数は約13万人となった一方で、開催件数は前年を上回る401 件に達し、熊本市内における集客及び宿泊の促進に寄与している。 【コンベンション開催件数・参加者数】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>令和3年 (2021 年)</th><th>令和4年 (2022 年)</th><th>令和5年 (2023 年)</th><th>令和6年 (2024 年)</th><th>令和7年 (2025 年)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td><td>103 件</td><td>236 件</td><td>272 件</td><td>344 件</td><td>401 件</td></tr> <tr> <td>参加者数</td><td>36,412 人</td><td>102,208 人</td><td>124,265 人</td><td>162,197 人</td><td>132,356 人</td></tr> </tbody> </table>						令和3年 (2021 年)	令和4年 (2022 年)	令和5年 (2023 年)	令和6年 (2024 年)	令和7年 (2025 年)	開催件数	103 件	236 件	272 件	344 件	401 件	参加者数	36,412 人	102,208 人	124,265 人	162,197 人	132,356 人
	令和3年 (2021 年)	令和4年 (2022 年)	令和5年 (2023 年)	令和6年 (2024 年)	令和7年 (2025 年)																		
開催件数	103 件	236 件	272 件	344 件	401 件																		
参加者数	36,412 人	102,208 人	124,265 人	162,197 人	132,356 人																		
事業の今後について	今後も熊本市第2期 MICE 誘致戦略に基づく重点ターゲットへの誘致活動を展開及び継続的な関係構築を図り、国外へのアプローチに取り組んでいく。																						

②. インバウンド誘客対策事業（熊本市）

事業実施期間	継続中（開始時期不明）【実施中】				
事業概要	中心市街地には熊本城をはじめとする主要な観光・文化施設が存在しており、復興に向けた観光振興として、復旧が進む熊本城をはじめとした観光資源の国外へのPRを行う。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】1,154,247 人 ・西日本・九州の各市と連携した「西のゴールデンルート」周遊観光プロモーション（万博への出展、WEB 広告配信、訪日 WEB メディア広告、位置情報を活用した広告配信、ホテル等でのリアル広告等）を展開し、広域周遊の発信を強化した。令和7年の海外からの延べ宿泊客数は前年を超え約115 万人となり、市内の宿泊客数増加に大きく寄与している。				

	【延べ宿泊客数（海外客）】 <table><tr><td>令和3年 (2021 年度)</td><td>令和4年 (2022 年度)</td><td>令和5年 (2023 年度)</td><td>令和6年 (2024 年度)</td><td>令和7年 (2025 年度)</td></tr><tr><td>—</td><td>47,222 人</td><td>433,602 人</td><td>889,616 人</td><td>1,154,247 人</td></tr></table>	令和3年 (2021 年度)	令和4年 (2022 年度)	令和5年 (2023 年度)	令和6年 (2024 年度)	令和7年 (2025 年度)	—	47,222 人	433,602 人	889,616 人	1,154,247 人
令和3年 (2021 年度)	令和4年 (2022 年度)	令和5年 (2023 年度)	令和6年 (2024 年度)	令和7年 (2025 年度)							
—	47,222 人	433,602 人	889,616 人	1,154,247 人							
事業の今後について	今後も欧米豪の旅行者や高付加価値層を新たに西日本・九州へ誘客することを主眼として、参画自治体の観光資源を広域周遊ルートとして発信する取組を図ることで、観光客や市内宿泊客数の増加に努めていく。										

③. 台湾誘客事業（熊本市）

事業実施期間	令和6年度～令和8年度【実施中】										
事業概要	熊本城をはじめとする観光資源を台湾市場に向けPRすることにより、台湾からのインバウンド需要の創出を図る。										
国の支援措置名及び支援期間	① デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和6年度） 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）（内閣府）（令和7年度～令和8年度）										
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】324,175 人 ・台北・高雄の旅行博出展、繁体字 Instagram の運用、現地イベント出展（高雄市主催「日台高雄フルーツ祭」、2026「Kaohsiung Wonderland」）等を展開した。加えて、高雄・台南線の新規就航、台中線の就航など拡大する航空ネットワークを踏まえ、継続的な発信で誘客の強化等に取り組み、令和7年の台湾からの延べ宿泊客数は前年を超え約32万人となり、市内の宿泊客数増加に大きく寄与している。 【延べ宿泊客数（台湾）】 <table><tr><td>令和3年 (2021 年度)</td><td>令和4年 (2022 年度)</td><td>令和5年 (2023 年度)</td><td>令和6年 (2024 年度)</td><td>令和7年 (2025 年度)</td></tr><tr><td>—</td><td>6,109 人</td><td>112,219 人</td><td>296,844 人</td><td>324,175 人</td></tr></table>	令和3年 (2021 年度)	令和4年 (2022 年度)	令和5年 (2023 年度)	令和6年 (2024 年度)	令和7年 (2025 年度)	—	6,109 人	112,219 人	296,844 人	324,175 人
令和3年 (2021 年度)	令和4年 (2022 年度)	令和5年 (2023 年度)	令和6年 (2024 年度)	令和7年 (2025 年度)							
—	6,109 人	112,219 人	296,844 人	324,175 人							
事業の今後について	今後も航空ネットワークの拡大に呼应し、旅行博出展・BtoB 商談・FAM ツアー・SNS／訪日メディア発信を一体運用した通年プロモーションを継続展開することで、観光客や市内宿泊客数の増加に努めていく。										

④. 観光戦略事業（熊本市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	観光WEBサイトにおける情報発信、観光案内所の運営や熊本国際観光コンベンション協会が行う観光客誘致・受入事業に対する補助を行う。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】69.8% ・観光 WEB サイトでの情報発信や観光案内所の運営、熊本国際観光コンベンション協会による観光客誘致・受入事業への支援を行い、観光客の受入環境の充実を図った。その結果、観光客満足度は69.8%と一定の水準に達し、利便性の向上や市内宿泊客数の増加に寄与している。				
	【観光客の満足度】				
	令和３年度 （2021 年度）	令和４年度 （2022 年度）	令和５年度 （2023 年度）	令和６年度 （2024 年度）	令和７年度 （2025 年度）
	34.9%	72.4%	62.5%	68.5%	69.8%
事業の今後について	今後も、観光情報の発信強化や観光案内機能の充実、関係機関との連携により、観光客の受入環境のさらなる向上を図るとともに、観光客の利便性向上と市内宿泊客数の増加につなげていく。				

⑤. 熊本城特別公開関連事業（熊本市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】				
事業概要	入園券等の販売においてキャッシュレス・DX の推進を図る。 熊本城の歴史・文化に関する誘客コンテンツの創出や SNS 等を活用した情報発信により、誘客の促進を図る。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】314,474 人（1,416,585 人） ・熊本城では例年 10 月～11 月に秋のおしろまつりを開催しており、夜間のライトアップや伝統芸能を取り入れ、幻想的な熊本城の演出を行っている。 令和６年度から日本最大級の「雲上の熊本城」を実施して以来 10 月～11 月の入園者数は増加傾向にあり、熊本城周辺の集客に寄与している。				
	【10 月～11 月の入園者数（年間入園者数）】				
	令和３年度 （2021 年度）	令和４年度 （2022 年度）	令和５年度 （2023 年度）	令和６年度 （2024 年度）	令和７年度 （2025 年度）
	149,243 人	223,124 人	278,544 人	312,757 人	314,474 人
	447,851 人	1,002,978 人	1,353,520 人	1,419,664 人	1,416,585 人
事業の今後について	令和８年度も「雲上の熊本城」などの取組を実施することで、熊本城入園者数の増加に取り組み、文化観光拠点としての魅力向上を図っていく。				

⑥. 熊本城おもてなし事業（熊本市）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】				
事業概要	熊本地震から復旧の進む熊本城を訪れた観光客にむけ、「熊本城おもてなし武将隊」による定時演武披露や記念イベントの開催などのおもてなし活動を通じ、「熊本城」及び「くまもと」の魅力・知名度及び満足度向上を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】69.8%				
	・熊本城や桜の馬場城彩苑において、演舞や写真撮影等のおもてなしを実施し、本市観光の魅力向上を図ることで、熊本城の入園者の増加や来訪者の満足度向上などに大きく寄与している。				
	・熊本城及び桜の馬場城彩苑において、午前午後の1日2回の演舞を実施（年間363日）しながら、火の国まつり、お城まつり、ヴォルターズやロアッソなどのスポーツの試合等の市内各所で行われるイベント等に年間170回程度参加し、本市のプロモーション業務を行った。				
	【観光客の満足度】				
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
	34.9%	72.4%	62.5%	68.5%	69.8%
事業の今後について	今後も、おもてなし武将隊による活動を継続し、関係機関と連携しながら、熊本城の魅力向上及び来訪者の満足度向上につなげていく。				

⑦. ナイトタイムエコノミー推進事業（熊本市）【令和7年度追加】

事業実施期間	令和6年度～【実施中】				
事業概要	熊本城等における灯りのイベントなど、夜の魅力を発信・活用するナイトコンテンツの造成等により、観光資源の魅力向上を図る。				
国の支援措置名及び支援期間	② デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和6年度） 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）（内閣府）（令和7年度～令和8年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】37,529人 昨年度に引き続き熊本城の秋のおしろまつりに合わせて、熊本城灯りのイベント「夜火夜火（Yoka Yoka）」を開催した。令和7年度は、水の恵みと文化をベースとしたコンセプト構成でプロジェクションマッピングや参加型イベントを実施し、熊本の魅力を体験する機会を創出することで、熊本城から桜町・花畑周辺までの回遊性向上・中心市街地の集客に寄与している。				

	【熊本城入園者数（実施期間中の夜間のみ）】				
	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度) ※R6.10.11～ R6.11.4	令和7年度 (2025年度) ※R7.10.10～ R7.11.3
	—	—	—	36,584人	37,529人
事業の今後について	今後も、熊本城等におけるナイトタイムエコノミーの推進に努めることで、観光拠点の夜間景観の魅力拡大を図っていく。				

⑧. 熊本城マラソン事業（熊本城マラソン実行委員会）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】					
事業概要	「熊本城マラソン」を開催する。					
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和5年度～令和9年度）					
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】14,518人（4,962人）					
	・令和7年度のマラソン大会の出走者数は14,518人となっており、そのうち県外からの参加者は4,962人と県外からの宿泊客数の増加に寄与している。					
	・今大会から市外からのランナー増加のため、新たに海外枠を新設（先着300名）する等、国外へのアプローチにも取り組み、海外からの宿泊客数増加に効果が期待される。					
	【マラソン大会の出走者数】					
	年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
出走者数	-	11,710人	14,639人	14,237人	14,518人	
うち県外	-	2,488人	3,946人	4,645人	4,962人	
事業の今後について	今後もスポーツを通じた本市の魅力発信や市内宿泊客数の増加に向け、本市の主要スポーツイベントとして安心安全で魅力的な大会の実施に取り組んでいく。					

⑨. 火の国 YOSAKOI まつり・九州がっ祭（九州がっ祭実行委員会、火の国 YOSAKOI まつり組織委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	熊本城内の二の丸公園メイン会場を含む複数会場にて、「火の国 YOSAKOI まつり・九州がっ祭」を開催し、全国から集結した踊り子がよさこいの演舞を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】135 団体（95 団体）（109,000 人） - 令和 7 年度は、熊本城二の丸特設ステージと市内中心市街地一帯（下通、新市街など）をメイン会場に開催され、参加団体は全国から 135 団体となり、うち県外参加団体は 95 団体を占め、県外からの宿泊客数の増加に寄与している。 - また、観客動員数は 109,000 人と前年度の実績を上回り、中心市街地のにぎわい創出や来訪者の増加に繋がっている。 【参加団体数（うち県外）・観客動員数】 <table><tr><th>令和3年度 （2021 年度）</th><th>令和4年度 （2022 年度）</th><th>令和5年度 （2023 年度）</th><th>令和6年度 （2024 年度）</th><th>令和7年度 （2025 年度）</th></tr><tr><td>57 団体 （42 団体）</td><td>104 団体 （79 団体）</td><td>110 団体 （82 団体）</td><td>109 団体 （82 団体）</td><td>135 団体 （95 団体）</td></tr><tr><td>45,000 人</td><td>86,000 人</td><td>73,500 人</td><td>102,000 人</td><td>109,000 人</td></tr></table>					令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）	57 団体 （42 団体）	104 団体 （79 団体）	110 団体 （82 団体）	109 団体 （82 団体）	135 団体 （95 団体）	45,000 人	86,000 人	73,500 人	102,000 人	109,000 人
令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）																
57 団体 （42 団体）	104 団体 （79 団体）	110 団体 （82 団体）	109 団体 （82 団体）	135 団体 （95 団体）																
45,000 人	86,000 人	73,500 人	102,000 人	109,000 人																
事業の今後について	今後も中心市街地における継続したイベントの開催を通じて、参加団体及び観客動員数の増加に取り組み、宿泊客数の向上に努めていく。																			

⑩. 中心市街地建て替え促進事業（まちなか再生プロジェクト）（熊本市）

事業実施期間	令和2年度～令和11年度【実施中】														
事業概要	中心市街地の老朽建築物の建て替え等に対する財政支援を実施する。														
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和5年度～令和7年度）														
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】59 件（累計） 令和 7 年度は建て替え件数の増加を目指して、規制緩和（運用基準の見直し）や地元金融機関との連携協定に基き、財政支援の拡充を行った。当該年度はホテルの建設に対する事業指定が多く、今後の中心市街地のにぎわい創出及び宿泊客数の向上に寄与している。 【建て替え件数（累計）】 <table><tr><th>令和3年度 （2021 年度）</th><th>令和4年度 （2022 年度）</th><th>令和5年度 （2023 年度）</th><th>令和6年度 （2024 年度）</th><th>令和7年度 （2025 年度）</th></tr><tr><td>19 件</td><td>22 件</td><td>27 件</td><td>34 件</td><td>59 件</td></tr></table>					令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）	19 件	22 件	27 件	34 件	59 件
令和3年度 （2021 年度）	令和4年度 （2022 年度）	令和5年度 （2023 年度）	令和6年度 （2024 年度）	令和7年度 （2025 年度）											
19 件	22 件	27 件	34 件	59 件											
事業の今後について	今後も財政支援による民間事業の後押しに努め、中心市街地の老朽建築物の更なる建て替えを促進していく。														

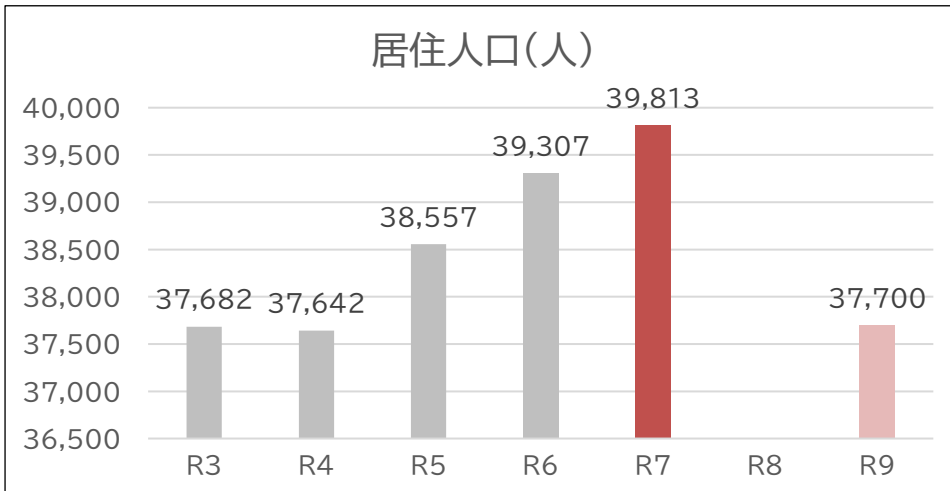
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和 7 年は、海外からの延べ宿泊客が約 115 万人となり、観光面だけでなく TSMC の進出等の経済面でも関係性の深い台湾を中心にインバウンド需要が期待されている。引き続き、熊本城の特別公開など本市の魅力ある資源等を活用した観光や、国外に向けたビジネスの誘客事業に取り組むことで、目標達成は可能だと思われる。

今後も、夜の魅力の拡大や各種イベントの充実に取り組み、熊本ならではの資源の利活用や価値の提供を行うことで、新たなにぎわいの創出や市内の宿泊客数増加につなげていく

(3)「中心市街地の居住人口」※目標設定の考え方認定基本計画 P.78～P.81 参照

●調査結果と分析



年	(単位:人)
R3	37,682 (基準年値)
R4	37,642
R5	38,557
R6	39,307
R7	39,813
R8	
R9	37,700 (目標値)

※調査方法:住民基本台帳からの集計

※調 査 月:毎年 10 月1日

※調査主体:熊本市

※調査対象:中心市街地7校区の住民基本台帳登録者

(参考) 校区別居住人口の推移 (上段:人口(人)、下段:前年比))

校区	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
城東	3,021	3,157	3,211	3,169	3,176		
	98.40%	104.50%	101.71%	98.69%	100.22%		
慶徳	3,838	3,787	3,864	3,902	3,862		
	100.63%	98.67%	102.03%	100.98%	98.97%		
五福	3,999	3,965	3,913	3,924	3,911		
	101.91%	99.15%	98.69%	100.28%	99.67%		
一新	10,140	10,131	10,244	10,349	10,696		
	101.14%	99.91%	101.12%	101.02%	103.35%		
碩台	6,186	6,089	6,177	6,323	6,527		
	100.28%	98.43%	101.45%	102.36%	103.23%		
古町	3,343	3,333	3,546	3,610	3,602		
	101.09%	99.70%	106.39%	101.80%	99.78%		
春日	7,155	7,180	7,602	8,030	8,039		
	104.22%	100.35%	105.88%	105.63%	100.11%		
合計	37,682	37,642	38,557	39,307	39,813		
	101.36%	99.89%	102.43%	101.95%	101.29%		

〈分析内容〉

令和 7 年度の中心市街地 7 校区の居住人口は、昨年度から約 500 人増加した。校区别では、4 校区で増加し、3 校区で微減となった。住宅地域を含む一新校区及び碩台校区では、昨年度比で増加率 3%を超えており、特に生産年齢人口が百人単位で増加している。アーケードや熊本駅に近い城東校区・春日校区では微増したが維持に留まった。一方で、桜町・花畑地区と熊本駅地区の間に位置する慶徳校区・五福校区・古町校区は減少となった。慶徳校区・古町校区では前年度よりも 64 歳以上の割合が 4%程度増加しており高齢化が進んでいることが一因であると考えられる。熊本駅の周辺地区ではマンションやオフィス等の建設が進んでおり、来年度も更なる居住人口の増加が見込まれる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地建て替え促進事業（まちなか再生プロジェクト）（熊本市）（再掲）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 1 1 年度【実施中】				
事業概要	中心市街地の老朽建築物の建て替え等に対する財政支援を実施する。				
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）（国土交通省）（令和 5 年度～令和 7 年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】59 件（累計）				
	・令和 7 年度は建て替え件数の増加を目指して、規制緩和（運用基準の見直し）や地元金融機関との連携協定に基き、財政支援の拡充を行った。当該年度はホテルの建設に対する事業指定が多く、今後の中心市街地のにぎわい創出及び雇用安定化に寄与している。				
	【建て替え件数（累計）】				
	令和 3 年度 （2021 年度）	令和 4 年度 （2022 年度）	令和 5 年度 （2023 年度）	令和 6 年度 （2024 年度）	令和 7 年度 （2025 年度）
	19 件	22 件	27 件	34 件	59 件
事業の今後について	今後も財政支援による民間事業の後押しに努め、中心市街地の老朽建築物の更なる建て替えを促進していく。				

②. マンション適正管理支援事業（熊本市）

事業実施期間	平成 2 0 年度～【実施中】
事業概要	マンションの適正な維持管理の誘導を図るためのセミナー開催、マンション管理士派遣、無料相談会開催及び耐震化支援などを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（地域住宅政策推進事業））（国土交通省）（令和 5 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	最新値】12 件（2 件） ・マンションの適正管理を支援するため、相談会、セミナー、意見交換会、専門家の派遣、管理規約整備補助、耐震化補助、管理計画

	認定、管理組合登録等を実施した。各取組により、マンションの適正管理が推進されており、安全で安心な居住環境の向上に寄与している。 【マンション管理士派遣件数、マンション管理計画認定件数】 <table><tr><td>令和3年度 (2021 年度)</td><td>令和4年度 (2022 年度)</td><td>令和5年度 (2023 年度)</td><td>令和6年度 (2024 年度)</td><td>令和7年度 (2025 年度)</td></tr><tr><td>15 件</td><td>16 件</td><td>18 件</td><td>14 件</td><td>12 件</td></tr><tr><td>—</td><td>2 件</td><td>7 件</td><td>6 件</td><td>2 件</td></tr></table>	令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)	15 件	16 件	18 件	14 件	12 件	—	2 件	7 件	6 件	2 件
令和3年度 (2021 年度)	令和4年度 (2022 年度)	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)												
15 件	16 件	18 件	14 件	12 件												
—	2 件	7 件	6 件	2 件												
事業の今後について	今後も安全・安心な居住環境の整備に向け、耐震診断や耐震改修等に関する支援等により耐震化率の上昇を図ることで、安全で安心な居住環境の向上に努めていく。															

③. 住宅・建築物耐震化促進事業（熊本市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】				
事業概要	平成12年5月31日以前に着工した戸建木造住宅（3階建以下）の耐震診断や耐震改修等に対する支援を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業） （国土交通省）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	最新値】約94.8%（令和5年度実績） ・既存建築物の耐震診断や耐震改修等（既存の改修や建替え）に関する補助金の給付といった支援等を通じて、既存建築物の安全性の向上を図った。耐震化率は年々上昇傾向にあり、市民等の耐震化への意識を高め、安全・安心な居住環境の整備に寄与している。				
	【耐震化率（参考値）】				
	令和3年度 （2021年度） ※R3.4.1時点	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度） ※R5.10.1時点	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
	約93.9%	—	約94.8%	—	—
	※第8次総合計画に合わせて掲載				
事業の今後について	今後も安全・安心な居住環境の整備に向け、耐震診断や耐震改修等に関する支援等により耐震化率の上昇を図ることで、安全で安心な居住環境の向上に努めていく。				

④. こども文化会館子育て支援事業（熊本市）

事業実施期間	平成7年度～【実施中】
事業概要	児童に遊びや学びの機会と場を提供するとともに、こどもたちの自主性や創造性など豊かな感性や思いやりの心を養うため、夏休み納

	涼祭や野外活動、絵本の読み聞かせなどのふれあい・交流事業や、体力向上を目的とした運動事業、ものづくりを楽しむ工作事業などの活動を行う。										
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和５年度～令和９年度）										
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】370,689人 ・令和 7 年度は、幼児、児童及び保護者を対象とした様々な企画を実施し、遊びや学びの機会と場を提供した。年間の利用者数は、約37 万人となっており、中心市街地のにぎわい創出とファミリー層の中心市街地への居住促進に寄与している。 【利用者数】 <table><tr><td>令和３年度 （2021 年度）</td><td>令和４年度 （2022 年度）</td><td>令和５年度 （2023 年度）</td><td>令和６年度 （2024 年度）</td><td>令和７年度 （2025 年度）</td></tr><tr><td>休館</td><td>185,631 人</td><td>329,164 人</td><td>394,875 人</td><td>370,689 人</td></tr></table> ※令和 3 年度は大規模改修により休館	令和３年度 （2021 年度）	令和４年度 （2022 年度）	令和５年度 （2023 年度）	令和６年度 （2024 年度）	令和７年度 （2025 年度）	休館	185,631 人	329,164 人	394,875 人	370,689 人
令和３年度 （2021 年度）	令和４年度 （2022 年度）	令和５年度 （2023 年度）	令和６年度 （2024 年度）	令和７年度 （2025 年度）							
休館	185,631 人	329,164 人	394,875 人	370,689 人							
事業の今後について	今後も SNS 等を活用した効果的な周知や、子育て世帯のニーズに沿った事業を展開することで、利用者数の向上（寄与に）努めていく。										

⑤. 街なか子育てひろば事業（熊本市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】				
事業概要	現代美術館内に子育て支援スペースを設置し、地域子育て支援拠点施設の運営を行う。				
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（こども家庭庁）（令和5年度～令和9年度）				
事業目標値・最新値及び進捗状況	【最新値】15,440人				
	・令和7年度は、ワークショップの広報手段の見直しを行い、市政だよりに加えて、市HP及びラジオ広報を活用し広報を行うなど広く情報提供を行った。年間利用者数は前年度から約2,200人増加し、15,440人となり、中心市街地のにぎわいの創出及びファミリー層の中心市街地の居場所の提供に寄与している。				
	【利用者数】				
	令和3年度 （2021年度）	令和4年度 （2022年度）	令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）
	3,244人	6,980人	11,579人	13,202人	15,440人
事業の今後について	今後も街なか子育てひろばを認知していない市民にも情報提供ができるよう広報の強化を図ることで、子育て世代の居場所の提供				

	や安心して子育てができる環境整備に取り組み、中心市街地のにぎわいの創出とファミリー層の中心市街地への居住促進を図っていく。
--	---

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和7年度の中心市街地の居住人口は、前年度に引き続き目標値を大幅に超える結果となり、今後も更なる居住人口の増加が期待されているため、目標達成が見込まれる。今後も、中心市街地建て替え促進事業による財政支援により、各地区での建て替え需要を活性化させるとともに、金融機関と連携した効果的な支援に取り組んでいく。また、耐震化等による防災力の向上が進む中で、街なか子育てひろば事業やマンション適正管理支援事業等により、ファミリー層の支援や居住施設における連携・コミュニティの強化に取り組んでいくことでハード・ソフトの両面から安心安全なまちづくりへと繋げ、居住人口の増加を図っていく。